

みんなで 支え合い

地域包括ケアシステム

少子高齢化が進み、住民一人ひとりが福祉を考え、「地域の担い手」として活躍するまちづくりが求められています。では、これから私たちは具体的に何を考えていけばよいのでしょうか。

今回は、そんな「担い手」が集まる会議を紹介します。

「地域の担い手」とは

皆さんは「地域の担い手（担い手）と聞いてどんな人（人）を思い浮かべますか。地域の役員、住民ボランティア、事業所などさまざまな人たちによって地域は支えられています。また、隣近所で困っている人の相談に乗る、外からさり

げなく見守る、自治会活動に参加する、なども一つの担い手の形といえます。

少子高齢化や住民同士の関わり合いが希薄化する現在では、このような福祉の意識を住民一人ひとりが持ち、地域や他人のことも「我が事」として考えるまちづくりが求められています。

「担い手同士の協議の場 つくしネット筑紫野」

「つくしネット筑紫野」とは、地域での支え合いを推進するための市主催の協議の場です。コミュニティ運営協議会、民生委員・児童委員、シニアクラブ、地域支え合い推進員などで構成され、昨年からは担い手の確保について議論しています。

メンバーからは「担い手自身の高齢化、地域参加する人の減少により、この担い手が不足している」という意見が多くを占めました。

また、今後の対策案として、「より多くの人々が認知症の人を見守れるように、認知症サポーター養成講座を充実する」「若い人が行きたいと思える活動の模索」といった提案があり、住民が少しでも地域に目を向けてくれるような

きっかけづくりなどについて議論しました。

「できる範囲のことから考えてみませんか」

では、私たちは具体的に何をすればよいのでしょうか。

例えば、隣近所の人とのあいさつを日課にしてみてもどうでしょうか。毎日のあいさつから、お互いの名前や暮らしを知る機会になり、お互いの見守りになります。そんな何気ない意識が、非常時の助け合いや安否確認などにつながる可能性があります。

まずは、自分のできる範囲のことを一つ考え、地域に関わってみませんか。

このように、既存の活動やつながりを大切にしつつ、地域に関わるさまざまな人や団体ができる範囲で支え合う、まちづくりが広がっていく姿は、まさに地域包括ケアシステムであり、市でもこのような取り組みが広がるよう努めています。

問 高齢者支援課



オンライン会議を行う「つくしネット筑紫野」の皆さん



小学校での認知症サポーター養成講座